

トサオトギリを探せ！

～30年ぶりの発見者になりませんか～

Hypericum tosaense Makino

トサオトギリ [オトギリソウ科]

本州（近畿地方西部～中部地方東部）、四国（香川県・高知県）に分布する多年草。蛇紋岩地など岩混じりの草地に生育する。牧野富太郎博士が高知県高知市一宮から採集した標本を基に学名を発表した。開花期7～9月。絶滅危惧IA類（環境省&高知県）。



写真：鴻上泰 1987年7月14日

◆ 募集する情報

牧野博士によってタイプ標本が採集された高知県では、1994年に南国市岡豊の蛇紋岩地で採集された標本を最後に自生が確認できていません。

今も高知に生きるトサオトギリの生育情報を募集します。

トサオトギリの画像×2
(1：全体像 2：花と葉が入ったアップ)

トサオトギリが生育している場所のGPS情報
(だいたいの場所でも可)

→すぐに植物園にご一報ください！

[情報提供いただいた後は]

→後日、牧野植物園による調査にご同行いただき、職員の指定する部位または株を標本用に採集していただきます（標本の採集者になっていただくことをご了承ください）。

※発見した時は、まずは落ち着いて、深呼吸しましょう。盗掘防止のため、周囲に悟られないようにしましょう。
※絶滅してしまう恐れがあるので、標本は採集しないでください。

担当職員のつぶやき

・最後にトサオトギリの標本が採集されたのは1994年8月15日、南国市岡豊。

[開花標本採集記録]

- ・1982年9月27日…高知市一宮（逢坂山）
- ・1951年9月20日…高知市円行寺
- ・1984年9月7日…高知市一宮（逢坂山）
- ・1994年8月15日…南国市岡豊

・いずれも蛇紋岩地で、水が染みているような場所で見つかっている。

・栽培による観察で、栄養状態がよく株が成熟すると開花する傾向がわかっている。肥培管理すると7月頃に開花するが、蛇紋岩地では重金属による生育阻害があるからか、自生地では9月以降の開花が多い。7～10月はじめまで、注意して探す必要がある。

・多年草とあるが短命で、開花すると元株はほとんどの場合翌年までには消失する。

◆トサオトギリとオトギリソウの比較

	トサオトギリ <i>Hypericum tosaense</i> Makino	オトギリソウ <i>H. erectum</i> Thunb.
花期	・8月～9月（高知県産標本より）	・6月中旬～9月（高知県産標本より）
花	<ul style="list-style-type: none"> ・黄色で倒卵状楕円形。 ・花弁は5枚で長さ9mm～15mm・幅5～8mm。 ・花弁の辺縁は波状縁で黒点を伴う。 ・花弁の内側には明点と明線がある。  <p>花弁は少しびつな形をしていて、外側の縁が波打っている。黒点はその縁にのみ見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黄色で倒卵形～楕円形。 ・花弁は5枚で長さ6mm～10mm・幅2～2.5mm。 ・花弁は全縁で辺縁に黒点がある。 ・花弁の内側には黒点と黒線がある。  <p>花弁全体に黒点がみられる。</p>
	<p>※平均してトサオトギリのほうが花が大きく、雄蕊が多くて目立つ。 ※トサオトギリは縁にしか黒点がない。</p>	
萼	<ul style="list-style-type: none"> ・三角状卵形～披針形で明点と明線がある。 ・辺縁にのみ、黒点がまばらにある。 ・萼の先端は急に尖る。  <p>黒点は萼の辺縁にしかみられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・披針形～線状披針形で黒点がある。 ・辺縁にも少数の黒点がある。 ・図鑑では、萼の先端は鋭頭とあるが鈍頭もある。  <p>萼全体に黒点がみられる。黒点がつながって黒線になることも。</p>
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・質がやや厚く、楕円形～卵状・狭・倒卵状楕円形。 ・葉身には表も裏も密に明点があり、黒点は辺縁にのみある。  <p>葉身は表も裏も明点が目立ち、黒点は辺縁のみに見られる。葉脈の分岐は比較的基部にあり、3行脈のように見えることもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質が厚くて硬く、狭三角状卵形～狭楕円形 ・特に葉裏の黒点が目立つ。まれに明点もある。辺縁にもまばらに黒点がある。   <p>黒点は辺縁にのみ。葉脈の分岐は基部だけではない。葉裏には全体に黒点があつてよく目立つ。</p>
茎	<ul style="list-style-type: none"> ・約15～75cm、単生するか2～3本の株立。 ・茎に2本の稜があり、その上に黒点を伴う。  <p>葉裏の主脈から続くように、茎に稜が入る（この裏側にもあるので、2本の稜がある）。この稜の上にはまばらに黒点がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・約30～80cm、単生するか数本の株立となる。 ・はじめ2稜あるが、成熟個体は円柱形になる。  <p>開花サイズの成熟個体の茎には稜が見られず、円柱形。</p>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 花は1日花で、午後にはしぼんでしまうため、観察は午前中がのぞましい。 ● 両者は蛇紋岩地に同所的に生え、開花期が重なることもある。ただし、オトギリソウは蛇紋岩地ではあまりお目にかかれない。 ● オトギリソウは、形態変異に富む種で分類が難しいとされている。 	